

KUNST ARZT では、昨年に引き続き 2 度目となる、田中佐弥の個展を開催します。  
田中佐弥は、剥製や古道具などによる立体コラージュによって、事の本質を追求するアーティストです。  
占い師でもある美術家として、運命のように引き寄せてきたモノたちを代弁者として、今伝えるべきメッセージを立体コラージュに内包します。  
今回の展示では、「資本至上主義社会の人間の行末を、剥製により擬人化した動物の姿で、寓話的に表現」するインスタレーションになります。

(KUNST ARZT 岡本光博)



#### 経歴

1968 年 京都市生まれ  
1994 年 ハロルドワシントンカレッジ (イリノイ州シカゴ) 中退

#### 個展

2020 年 『患者たちのカーニバル』 アート美空間 Saga (神戸)  
2020 年 『Sign-象徴-』 原田の森美術館キギャラリー (神戸)  
2021 年 『終わりの時代のものがたり』 igu\_m\_art (大阪西天満)  
2022 年 『危ウキモノたち』 KUNST ARZT (京都東山)  
2023 年 『青い世界で蝶の夢を見る』  
コンテンポラリーアートギャラリー Zone (大阪箕面)

#### 主なグループ展

2014 年 『teshio paper x アーティストコラボ 2014 展』  
アート美空間 Saga (神戸三宮)  
2018 年 『7th Discover One Japanese Art』  
メニアギャラリー (イギリス)  
2019 年 『時砂場展』 igu\_m\_art (大阪西天満)  
2020 年 『未来箱展』 アート美空間 Saga (神戸三宮)  
2021 年 『瑠璃の地球展』 アート美空間 Saga (神戸三宮)  
2021 年 『PRISM 展』 コンテンポラリーアートギャラリー Zone (大阪箕面)  
2022 年 田中佐弥・田中広幸二人展 『風の黙示録』 コンテンポラリーアートギャラリー Zone (大阪箕面)  
2023 年 『Cosmos 展』 アート美空間 Saga (神戸三宮)

#### 賞

2014 年 第 10 回 Discover The Kobe Genius Artists Project 賞  
(ホテルラ・スイート神戸ハーバーランド)

248 年—248 years—

2022

W80×D80×H130(cm)

人体骨格模型、和紙、樹脂、時計パーツ、錫杖、ロザリオ、鹿頭骨、鹿毛皮、書籍(法の書)、アンティーク帽子及びマント

冥王星の 248 年という公転周期に合わせる様に、過去も世界を貫く思想は書き変わってきた。そして冥王星が 248 年振りに巡ってきた今、世界は今までの世を破壊し、新たな思想とシステムの世界を作り上げるために動き出した。

2023 年 10 月 3 日 (火) から 8 日 (日)

12:00 から 18:00

会 場 : KUNST ARZT

605-0033 京都市東山区夷町 155-7 2F

問い合わせ



KUNST ARZT 代表 岡本光博

090-9697-3786

kunstarzt@gmail.com

## アーティスト・ステートメント

思いがけない物が手元に来た時、  
不思議なイメージが浮かぶ瞬間がある。  
やがて、ただの思いがけない物は、私にそのイメージの意味を語りだす。  
今回もそうしたイメージの意味に駆られ制作した作品である。

羊の頭(ovis caput)とはラテン語で、資本(capital)の語源である。  
人間は羊などの家畜によって豊かさを手に入れ、資本による新たな社会システムを生み出した。  
しかし現在、我々は行き過ぎた資本主義の虜になっていて、資本至上主義がもたらす残酷なもう一つの姿を、  
見ようとしていないのではないのか?

今回の展示では、資本至上主義社会の人間の行末を、剥製により擬人化した動物の姿で、寓話的に表現してみた。

古代からイソップの寓話のように、擬人化された動物の話によって、人々はそこに人間の姿を重ね戒めてきた。  
我々を取り巻く本質的な問題が見えにくい現代であっても、寓話で有れば様々な制限を超えて、  
この物語を通して、危うい現代と自身の姿を見出すのかもしれない。



個展「危ウキモノたち」展示風景 (2022) by OFFICE MURA Photo



『Death goes around - 死は巡る -』 2019



『Butterfly Effect - 蝶の羽ばたき -』 2023